

文部科学省委託事業

平成 23 年度 東日本大震災からの復旧・復興を担う専門人材育成支援事業

福島観光業の復興を担う
人材育成カリキュラム開発
成果報告書

学校法人 新潟総合学院 郡山情報ビジネス専門学校

はじめに（事業の概要）

震災以降、原発事故による放射能汚染の影響を受けて福島県の観光業は大きな打撃を受けている。今後、風評等による被害を払拭し、国内外から多くの観光客を再び呼び込むために、観光協会等では福島ならではの様々な打開策を練っており、次代を担う人材にもそれ相応の資質が求められるものと考えられる。本校には観光業への就職を目指す学生を対象とした国際観光科という学科があり、旅行業務取扱管理者試験の対策や観光英語の学習を通して、観光業関連業務に必要な知識を習得する専門学習を行っている。しかし、今後の福島県の観光業に求められる人材を育成していくという観点から、いま一度カリキュラムの見直しと再構成を行い、社会のニーズに添えていける人材の輩出を目指していく必要性を感じている。本計画においては、まず平成23年度中に福島県内の観光業の抱えている問題点を様々な観点から確認するとともに、観光業に携わる方々との協力体制を整える。その後、平成24年度において観光業において求められる新たな人材像に適したカリキュラムを検討・作成し、可能であれば一部試行導入、平成25年度からは本格的な試行導入を目指す。

目次

I. 視察報告① 岩手県・宮城県被災地視察	… 1
II. 視察報告② 福島県内観光地視察報告	…18
III. 放射線に関する分科会のまとめ	…24
IV. 福島県における観光業界の現状や 問題点についてのアンケート	
①アンケート質問項目	…26
②アンケート集計結果	…29
V. 次年度カリキュラム開発にむけて	…35

I. 視察報告① 岩手県・宮城県被災地視察

1. 視察の概要

1. 1 目的

今回、岩手を中心に観光地および被災地を視察した。視察の目的は下記のとおりである。

【目的】

- ・岩手県における復興の状況や観光の復興に向けた動きを視察する。

当初、福島、宮城、岩手の被災地を広範囲に視察する案が出されたが、委員から下記の意見出され、第1回の視察は岩手を中心とした観光の復興状況を視察することとなった。

【視察についての意見】

- ・被災状況を視察することに偏っている感じがする。現状案は海岸線を移動するので、かなり強硬なスケジュールな印象である。
- ・復興の生の声を聞けるようなポイントを訪問するのも良いのではないか。観光客誘致に力を入れているところなど。今回だけでなく、次回の文科省を見越して継続的に視察できるところが良い。
- ・3県のポイント（復興の兆しのあるところ）を絞って視察する。

上記の意見を反映して、今回、2泊3日で無理のない範囲として盛岡、遠野、南沿岸部を中心とした地区を選定した。

1. 2 行程・参加者

(1) 下記の行程のとおり、岩手県中部・南部を中心とした地区を視察した。

【日程】 2泊3日 平成24年2月22日(水)～平成24年2月24日(木)

【交通】 JR・マイクロバス

行 程	
1日目 2/22 (水)	<p>花巻駅=== (ジャンボタクシーにて) === (12:00) 宮沢賢治記念館 (12:40)・・・(12:50) 山猫軒 (昼食) === (13:50) 花巻市大迫交流活性センター「早池峰と賢治の展示館」(14:20) === (14:30) EDEL WINE = (15:00) 千葉家の曲がり屋 (15:30) === (15:50) 遠野ふるさと村 (16:30) == 花巻 == (18:00) 盛岡</p> <p>* 新花巻駅にて集合 * 盛岡市内ホテルにて「第2回協議会」(17:30～19:30) * ホテルパールシティ盛岡(宿泊)</p>
2日目 2/23 (木)	<p>盛岡カレッジオブビジネス (11:30) === ジャンボタクシーにて === (14:00) 釜石市 (下車・被災地・仮設住宅・仮設店舗など視察) == (15:30) 陸前高田市 (下車・被災地・仮設住宅など視察) (16:30) == (18:30) 一関</p> <p>* 盛岡カレッジオブビジネスにて、岩手県商工観光課様より岩手県の観光復興行政に関する取り組みをお聴きします。 * 一関市内ホテルにて宿泊</p>
3日目 2/24 (金)	<p>一関(8:30) === 国道284号線 === (9:45) 気仙沼・・・海の道・・・お魚市場・・・観光棧橋・・・魚町屋号通・・・五十鈴神社・・・気仙沼プラザホテル(昼食)・・・気仙沼(13:20) === (14:20) 一関駅(14:48)</p> <p>* 気仙沼コンベンション協会ガイドの案内により被災地・観光地を視察(所要2時間) * 一関駅にて解散</p>

1. 3 事前知識

(1) 岩手県の基本情報は以下のとおり。

県庁所在地 盛岡市
 面積 15,378K² (日本では、北海道について2番目の広さ)
 県人口 約135万人 (7割が内陸部の北上盆地に集中、全国32位)

比較のため、全国都道府県別面積の順位を示す。

	都道府県	面積		都道府県	面積		都道府県	面積
	日本全土	37万7923.14	17	岡山県	7113.00	34	福井県	4189.27
1	北海道	8万3456.20	18	高知県	7105.01	35	石川県	4185.47
2	岩手県	1万5278.77	19	島根県	6707.57	36	徳島県	4145.69
3	福島県	1万3782.75	20	栃木県	6408.28	37	長崎県	4095.22
4	長野県	1万3562.23	21	群馬県	6363.16	38	滋賀県	4017.36
5	新潟県	1万2583.46	22	大分県	6339.33	39	埼玉県	3797.25
6	秋田県	1万1612.22	23	山口県	6112.22	40	奈良県	3691.09
7	岐阜県	1万0621.17	24	茨城県	6095.69	41	鳥取県	3507.26
8	青森県	9607.04	25	三重県	5776.87	42	佐賀県	2439.58
9	山形県	9323.44	26	愛媛県	5677.38	43	神奈川県	2415.84
10	鹿児島県	9187.80	27	愛知県	5164.06	44	沖縄県	2275.28
11	広島県	8478.52	28	千葉県	5156.58	45	東京都	2187.42
12	兵庫県	8395.47	29	福岡県	4976.17	46	大阪府	1896.83
13	静岡県	7780.09	30	和歌山県	4726.12	47	香川県	1876.47
14	宮崎県	7734.78	31	京都府	4613.00			
15	熊本県	7405.21	32	山梨県	4465.37			
16	宮城県	7285.73	33	富山県	4247.40			

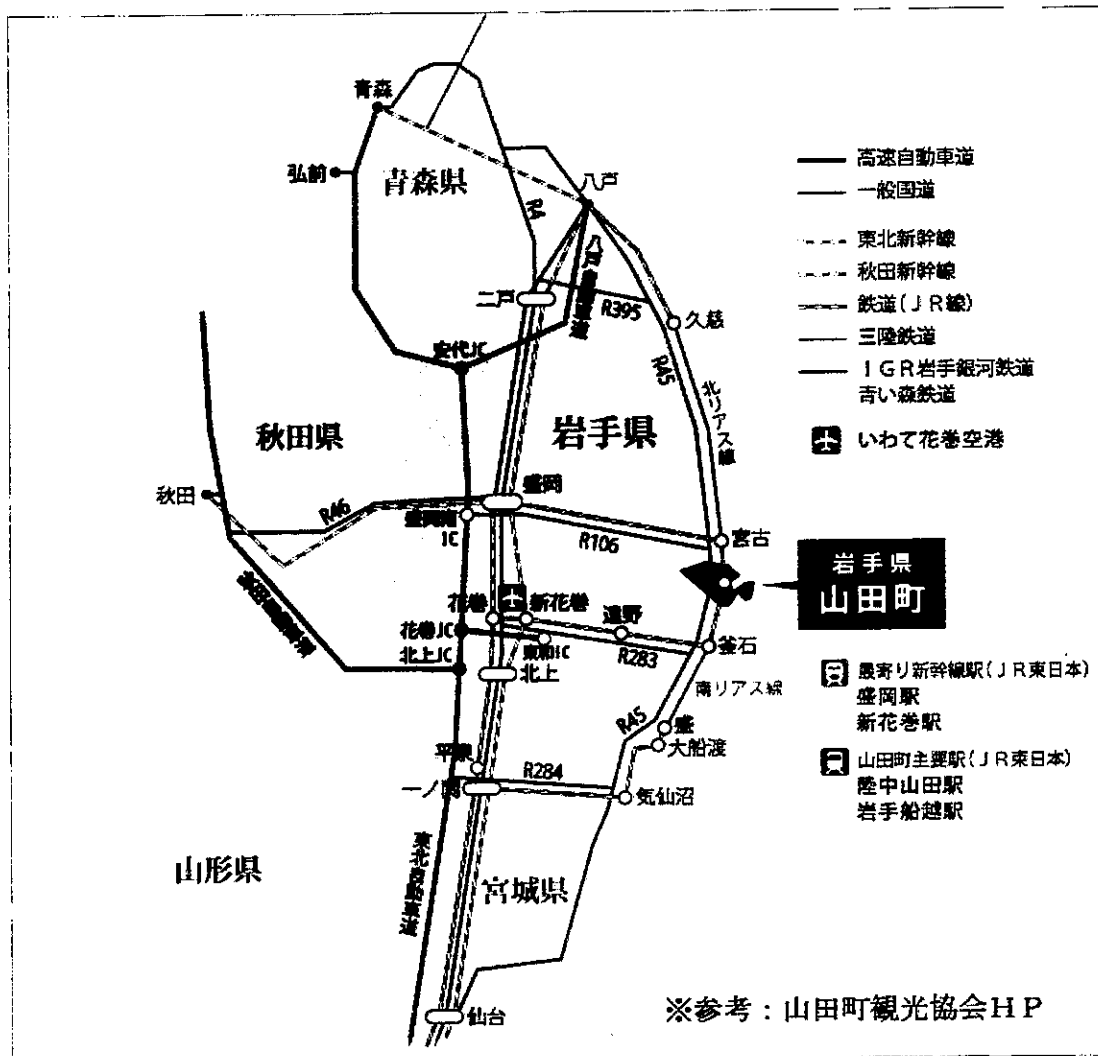
※参考：ウィキペディア

岩手県に限らず東北地方は、県面積が広く人口が少ないため人口密度が少ない県が多い。自然が多く観光名所が多いことを物語っている。岩手県は、人口密度では全国46位となっている。

(2) 交通と観光

岩手県は、大きく分けて新幹線沿いの内陸部と沿岸部に分かれる。観光としては交通の便により、さらにいくつかの地域に分けられる。

- ・ 八幡平、安比高原
- ・ 小岩井、雫石、盛岡
- ・ 三陸海岸
- ・ 花巻、遠野
- ・ 平泉、一関



近年(2010年12月)、東北新幹線が新青森駅まで延びたこともあり、東北一帯は、岩手県のみならず近県を含めた観光地として存在感を増している。

2 視察の内容

2. 1 視察地の報告

(1) 【1日目】出発

郡山駅は福島県の商都郡山の玄関口である。東北新幹線・東北本線・磐越西線・磐越東線・水郡線の発着・停車駅でもある。近代日本が国道と鉄道の幹線に沿って発達している事を考えると、観光を学ぶ者は鉄道の知識を身につけ、駅内・駅前・列車内をよく観察し、人・物の流れを学び続ける必要がある。

(出発時の郡山駅新幹線ホーム)



(2) 【1日目】岩手県の観光地視察①

「宮沢賢治記念館」の展示は、宮沢賢治をめぐるその環境・信仰・科学・芸術・農村・総合・資料からなり、写真やパネルなど約400点、さらにビデオやスライドなどで視覚的に賢治の世界に親しむことができるように工夫されている。場所は、新幹線新花巻駅より約2km、入場料(個人料金)は、

小学生・中学生	150円
高校生・学生	250円
一般	350円

宮沢賢治についての資料は、本人の手帳や校本全集をはじめ、関連資料や研究資料が数多く、図書資料室に収集されている。生涯の作品として、詩約800編、童話約100編、短歌約1000首、それに俳句、歌曲、教材用絵図、演劇、短編、絵画、花壇設計など、多岐にわたる。

宮沢賢治の文学的背景を知ることによって、より深く宮沢文学を理解することができる。

(宮沢賢治記念館 前)



(宮沢賢治記念館 内)



(3) 【1日目】岩手県の観光地視察②

「早池峰と賢治」の展示館は、もとは現在の花巻市花城町にあった旧稗貫郡役所建物を旧大迫町が払い下げを受け移築したもので、宮沢賢治の童話「猫の事務所」のモデルとなったとされている。

館内の資料を案内のボランティアガイド(館長)が宮沢賢治について語る際、「賢治さん」と尊敬の念と親しみを込めて話されていた姿が印象的であった。このような旧役所や旧校舎を利用した観光施設は全国的にも増加している。入場は無料。

岩手県花巻市大迫交流活性センター
「早池峰と賢治の展示館」



(4) 【1日目】岩手県の観光地視察③

早池峰山のふもとにある花巻市大迫町は、山形県高畠町に次ぐ東北地方のぶどうの栽培地である。ドイツの銘醸地と気象条件が類似していることから良質のワインが生産されている。大迫のぶどう栽培地区は合計4地区に分かれているが、生産者全員が低農薬、低化学飼料のエコファーマー栽培の認定を受けているとのことで、味覚だけではなく「安心・安全」なワインづくりを売りものとしている。この地域では、放射線量の不安などは、関係なさそうであった。

EDEL WINE (エーデルワイン)



(5) 【1日目】岩手県の観光地視察④

遠野は名馬の産地であり、南部馬の飼育が盛んになると同時に家の形も工夫され曲り家として確立された。千葉家の曲がり屋は南部藩特有のもので、今から約200年前に建築された豪壮な民家である。建物は住家の部分、畜舎の部分、土間の部分からなっている。かつては作男15人、馬20頭を有していた。現在は畜舎

遠野市「千葉家曲り家」



の部分は改装されて、千葉家に伝わる民具等が展示されている。平成 19 年 12 月、国の重要文化財に指定された。

入場料は小・中学生 100 円
高校生 250 円
一般 350 円

千葉家内の生活用水



(6) 【1 日目】岩手県の観光地視察⑤

遠野ふるさと村は、“まるごと生活環境博物館”と名うって、昔ながらの山里の文化や暮らしを紹介している。視察した期間はオフシーズンであったが、夏場であれば、ビジターセンターにて案内を受け、そばうちや木工制作など、様々な体験をすることができる。大工どん、川前別家、大野どん、肝煎りの家、弥十郎どんなど、各家屋別に見学を楽しむことができる。研修目的であれば、小中学校学生への宿泊も可能なようである。

入材料 小・中・高校生 310 円
一般 520 円

遠野ふるさと村



曲り家のかまど（常時煙で燻すことで藁ふき屋根を保護）



センターの方の話によると、震災直後は観光客が激減し例年の 1 割まで落ち込んだ。また沿岸津波被災地の人・物資のバックヤードとしてボランティアの宿泊受け入れを行ったそうである。夏場から観光客は戻りつつあるが、沿岸部の復興状況を考えると手放しでは喜べないという話しであった。

(7) 【2 日目】岩手県の被災地視察

2 月 23 日の午後は、岩手県の三陸海岸沿いの釜石市と陸前高田市を訪れた。共に東日本大震災・津波により、沿岸部の被害が甚大だった地域である。やっと瓦

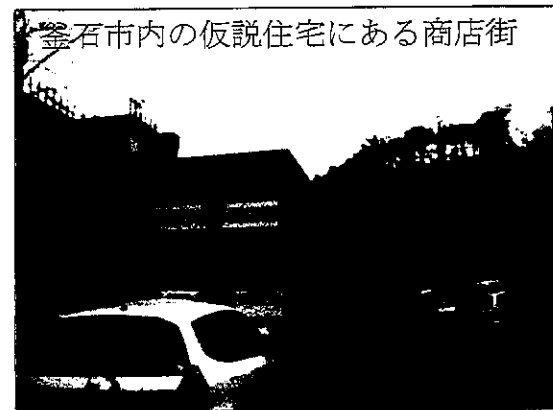
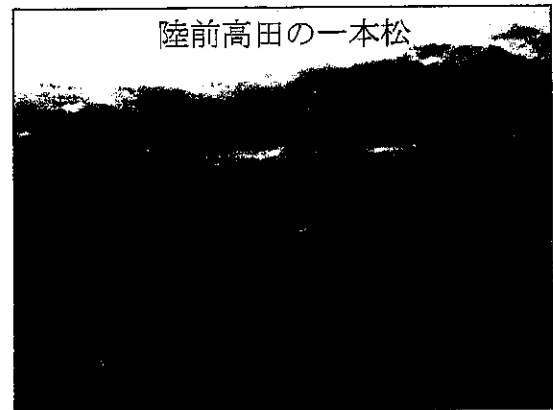
礫処理が終わったという段階で、復興はこれからという印象である。一定の高さ以上では、ほとんど津波被害は無くそのギャップが痛々しい。しかしながら、プレハブ等で早くも営業を再開している店もあり住民の力強さも感じた。

釜石市を例にとると、震災前に営業していたホテル・旅館・ペンションが合計19軒。そのうち13軒が平成24年2月現在営業中。三陸海岸のホテルを代表する「陸中海岸グランドホテル」が建物の損壊が激しく、現在も休業中、その他5軒の旅館が廃業に追い込まれた。

営業を再開しているホテル・旅館においても、宿泊客の大部分は観光客以外で、復旧工事関係者が長期間連泊しているようである。

今回、ジャンボタクシーにて釜石・陸前高田両市内を視察して廻ったが、市内の至る箇所に仮設住宅が建ち並び、住まいを失った人の多さを目の当たりにした。福島県の浜通り同様、三陸地方の復旧・復興には長期的な視点が必要であり、岩手県のホームページを見ると様々な長期プロジェクトが立ち上がっている。

- ・「三陸創造」
- ・「さんりく産業振興」
- ・「東日本大震災津波伝承まちづくり」
- ・「さんりくエコタウン形成」
- ・「国際研究交流拠点形成」
- ・「新たな交流による地域づくり」などがあり、県民や様々な団体の意見や提言を取り入れて数年間をかけ、進行する計画である。



(8) 【3日目】宮城県の被災地視察

2月24日、被災地の復興状況・観光施策について、気仙沼観光コンベンション協会の協力を得て、ボランティアガイドさんにお話を聞いた。

気仙沼市は宮城県と岩手県の県境に位置し、全国有数の漁業・水産加工業の土地として有名。また気仙沼大島など、唐桑半島を中心とする三陸の沿岸は、美しいリアス式海岸が観光の名所になっていた。東日本大震災により、気仙沼港が壊滅的な被害を受け、基幹産業である漁業・観光業とも、前年実績を大きく下回った。三陸新報(平成24年1月6日)によると、平成23年全国主要水揚げランキングで、気仙沼港は数量で16位(平成22年は9位)、金額も16位(平成22年は8位)に順位を落とした。東北地方の三陸海岸沿い各港では、八戸港が数量で全国6位と前年順位を維持したが、その他の港では軒並み前年を大きく下回った。

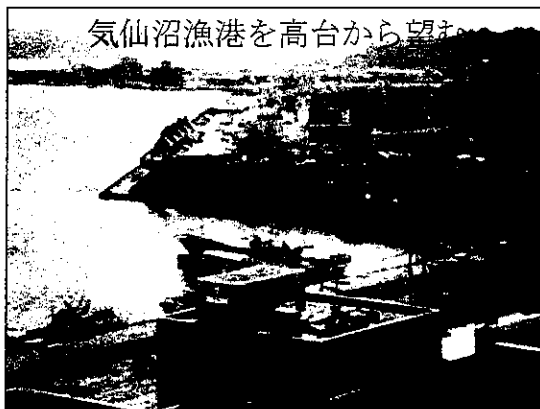
「震災被害を後世に伝えていくため、津波で打ち上げられたままの巻き網漁船を残すべき」。こうした市民の声を受け、気仙沼市は平成23年7月、国立での震災復興祈念公園整備の一環で、漁船モニュメント構想を国に提案した。その後も政府関係者らが来市するたび国による公園整備を求めているが、具体的な進捗はまだみられないとのこと。

今後の「観光の目玉」になるため「保存」に賛成する意見がある一方で、津波で家族を失った家族からは「撤去」の声が届き、市には賛成、反対双方の意見が寄せられており、今後の動向に対する市民の関心も高いようである。

宮城県気仙沼にて



気仙沼漁港を高台から望む



気仙沼港近くの復興屋台村



2. 2 岩手県商工労働観光部との情報交換

2月23日(木)9:30より、盛岡カレッジオブビジネス6階にて、岩手県商工労働観光部観光課主査 菊地宏明様より、「いわての観光復興に向けた取り組みについて」のお話を聴いた。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波の発生により、岩手県も大きな被害を受けた。一部の沿岸地域の壊滅的な状況に対して、内陸部のほとんどの施設で通常通り受け入れが可能になっているとのこと。

盛岡カレッジオブビジネス内



(1) 日本国内の観光状況

国土交通省観光庁の資料から、平成23年度第2四半期(4月～6月)の旅行者数等の説明

- ・ 宿泊旅行統計調査の結果
 - 外国人宿泊者の激減(前年同月比-66.6%)
- ・ 都道府県別延べ宿泊者数の結果
 - 震災復興により岩手、宮城、福島は前年同月比で20%前後、延べ宿泊者数が増加している。
- ・ 外国人延べ宿泊者数
 - 東北各県は、前年同月比で9割弱も減少している。
 - 台湾からの流入がかなり減少し、相対的にアメリカの割合が増加
- ・ 都道府県別定員稼働率

(2) 震災後の岩手県の観光状況

岩手県の観光復興に向けた取り組みについての説明

① 岩手県内の現状

【内陸部の状況】

- ・ 早い段階で、ほとんどの観光施設、宿泊施設が通常営業中。
- ・ 旅行代理店も多数の商品を販売。
- ・ 風評被害等により観光客がなかなか戻らない。
- ・ 内陸部は、沿岸地域の復興作業員宿泊所として稼働率が高かった。

【沿岸部の状況】

震災営業停止中の宿泊施設もあるが各地急ピッチに観光地の再生作業中。

- 田野畑地区 サップ船アドベンチャーズ 昨年7月から営業再開
- 浄土ヶ浜地区 青の洞窟サップ船遊覧、遊覧船 昨年7月から営業再開
- 山田 カキ小屋 昨年10月から営業再開

② 震災の影響：観光客の落ち込み状況①

【宿泊予約キャンセルの落ち込み状況】

- 岩手県旅館ホテル生活衛生同業者組合の取りまとめによると、昨年4月17日時点において、震災発生以来24万人のキャンセルが生じた。
- 平成22年の宿泊者数の実績は、月平均約23万9千人であるため、今回の地震津波災害の影響により、ほぼ1ヶ月分の宿泊者数に相当するキャンセルが発生したことになる。

③ 震災の影響：観光客の落ち込み状況②

【GW期間中（4/29～5/5）の観光客の入込状況】

（岩手県観光課調査 対象：県内主要観光地11ヶ所）

- 観光客入込数の激減：213,148人回、対前年比：26.8%（=△73.2%）
- 県内主要観光地(11ヶ所)全てにおいて観光客の入込が減少した。

*観光客入込数が大幅に減少した主な観光地

平泉	対前年比△84.8%
龍泉洞	対前年比△80.6%
北上展勝地	対前年比△74.1%
狛鼻溪	対前年比△73.6%
えさし藤原の郷	対前年比△64.4%

(3) 岩手県の観光復興の取組状況

① 「平泉の文化遺産」の世界遺産登録の効果

平成23年6月19日より開催されたユネスコの第35回世界遺産委員会において、「平泉の文化遺産」が世界遺産登録決定。これにより、世界遺産となった「平泉」を被災地の復興シンボルに掲げ、関係各者の取り組みとも連携することでアピール力を強化。7月3日に岩手県の達増知事が、平泉を東北復興のシンボルにする旨を宣言。

② 復興の動きと連動した全県的な誘客への取組み

□ 復興支援の要素を加味したいわてディスティネーションキャンペーン(DC)の実施

⇒平成23年6月29日、震災により延期されていた「いわてDC推進協議会第3回総会」において、被災した市町村からも、DCを成功させようとの声が挙がり、再スタートを切った。

いわてDCプレキャンペーン (H23.7.1~H24.3.31)
～平泉が世界遺産登録後のH23.7.1から早速スタート～
世界遺産登録の効果をDCへ継続

いわてDCキャッチコピー

イーハトーブいわて物語 ～そういう旅に私はしたい。

- * イーハトーブとは、宮沢賢治が、故郷である岩手県を自身の心象世界の中の理想郷として名付けたもので、「自然との調和の中での平和を追求」しようとする宮沢賢治の理想が込められているとのこと。
- * このことは、「平和と環境の理念」が込められている平泉の浄土思想と通底するものがあると考えられる。

③ 旅行商品造成・販売促進に向けて (H24.4からのDCのイベント)

出切る限り多くの沿岸被災地の観光資源をセールス

【DC期間中のイベント例】

- ・ いわて麺フェスタ (仮称)
「わんこそば」、「盛岡冷麺」、「じゃじゃ麺」、「そばかけ」
バラエティー豊かないわての麺が盛岡に大集合！
- ・ 花巻ベツバラ (別腹) フェア
「漬物そふと」(アイスクリーム)、「盛岡キャベツ」(シュークリーム)、
「プリン大福」、「ハンバーグたい焼き」など個性派おやつが花巻で競演！
- ・ 東北六魂祭
昨年、仙台市で開催され大好評だった「東北六魂祭」が、
平成24年5月26日(土)・27日(日) *盛岡市で開催決定
- ・ その他、DC期間中、県内各地で多彩なイベントの開催を予定。

④ 受け入れ態勢の整備

- ・ スマートフォンなどの携帯端末を利用し、個人旅行客を対象としたサービスの充実
- ・ 県内各地で機運を盛り上げる取組が進行中
わんこきょうだい： PR のぼり、盛岡都心バス「でんでんむし」

⑤ 二次交通の整備

■ 具体的な支援内容

- ・ 復興応援ツアー（バスのツアー）の企画
陸前高田・大船渡コース、遠野・釜石コース、龍泉洞・北山崎・浄土ヶ浜コース
- ・ 各地域での観光素材のブラッシュアップやセールスに向けた取り組みを支援。
- ・ 平泉をはじめ内陸部と沿岸部をつなぐ2次交通の整備など県内回遊を促進する取組の調整。

⑥ 観光コーディネーターの設置

元JTBの社員。役割としては、観光資源の見せ方、企画方法などについての各地域の取り組みを助言・アドバイス・支援している。岩手県としては、人材を活用しているといった位置づけ。

(4) 国内外へ向けた観光振興施策の実施と効果

⇒具体的取り組み

- 首都圏主要駅等での情報発信の強化
- 岩手県内外での誘客促進イベント（キャンペーン、物産展での観光PR）
- 首都圏からの宿泊客へのクーポン券プレゼントキャンペーン など

⇒世界遺産登録後の観光客の動向

- 平泉の観光客入込数（*岩手県観光課調べ）
4～6月 対前年比 48.3%
7～9月 対前年比 217.0%
- 平泉を除く観光客入込数（*岩手県観光課調べ）
4～6月 対前年比 73.0%
7～9月 対前年比 103.5%

以上のように、平泉が世界遺産に登録されたことによる各地への波及効果がわかる。

■ 平泉観光客へのアンケート調査

平泉を訪れた観光客 794 人へアンケートを行った結果、
全体の 92%が県外客、
宿泊先は 61%が岩手県内、22%が宮城県内、17%が日帰り等であった。
以上の結果から、宮城県との競合が予想される。

⇒「平泉効果」の各地への波及

■ 青森県や秋田県との連携強化

平泉効果をさらに各地に波及させるには、特に平泉と平泉以北とを結ぶ新たなルート開拓が必要。
青森県や秋田県とも連携しながら情報発信・旅行商品造成促進を強化。

(5) 震災からの復興に向けた取組み

■ 平成 23 年 8 月、岩手県が「岩手県東日本大震災津波復興計画」を作成

計画の内容

【安全の確保】防災のまちづくり・交通ネットワークの整備

【暮らしの再生】生活・雇用・保険・医療・福祉・教育・文化地域コミュニティ・市町村行政機能

【なりわいの再生】商工業・観光

■ 中小企業被災資産修繕費補助事業

⇒旅館・ホテルの修繕に対する補助事業を創設。

旅館・ホテルの修繕に対し、修繕費の 2 分の 1 を事業者が出資する。残りの 2 分の 1 を市町村が補助する。市町村が負担する 2 分の 1 を県が補助する。(従って修繕費全体の 4 分の 1 を市町村が、同様に 4 分の 1 を県が補助する。県と市町村からの補助は最大 2 千万円。) これにより、被災した旅館・ホテルの建て直しをはかる。

(6) 質問および意見交換

(7)

① 震災の語り部

- ・ 三陸鉄道や NPO が、現地を見ながら被害状況を説明することから始まった。企業の研修、防災研修など、一般もまとまった数があれば受け入れて

いるようだ。

② 宿泊の客層

- ・ 宿泊客層が復興作業員から観光客にシフトするタイミング。
- ・ 復興もまだ時間がかかると予想され、多くの業者が出入りする。復興関係者の方々も観光客となりえるので、各部署連携を取りながら取り組みたい。

③ 岩手の観光

- ・ 大きく分けて内陸部、沿岸部。細かくは、県南エリア、県北エリア、観光客の入りやすいところ、入りにくいところがある。

④ 県の観光課の予算

- ・ 観光に関する予算は、震災前後では変化が無い。DCなどで集中投下する、創意工夫、スクラップアンドビルド、震災後に学会や会議の誘致など、古いものを捨てて新しいものを取り入れる。

⑤ 県の観光課の職員数、望む人物像

- ・ 臨時職員を含めて15人程度、出先機関に1～2人、観光協会に県庁職員、JR盛岡支社に人事交流で派遣など。
- ・ 岩手県では観光課は職員数が少ない。他県に比べても少ない印象がある。
- ・ 数年で人事異動があるので、基本的に接客・おもてなしができる、いろいろな知識のある方。

⑥ 海外からの集客

- ・ 台湾からの集客が多い。台湾は親日であり、震災後、いち早く観光客の戻りも早い。
- ・ 福島は韓国・中国で、目的はゴルフ・温泉。韓国の方は、岩手でも目的を持って来られる方が多い。台湾は、温泉、グルメ、春の桜などが好きということ由来。
- ・ スキーはバブルのころの1/3で、さらに震災後は減るかと思われたが、安比高原などは前年とほぼ同じ程度で落ち込みはそれ程なかった。
- ・ 岩手県は、基本的に宿泊が前提となる。福島は、首都圏からだとい日帰りターゲット。はやぶさは、郡山は止まらないので、岩手など北の地域に取られている印象がある。

⑦ 近県との連携

- ・ 遠くなればなるほど、特に海外からは、岩手1県で観光が終わることはなく、近県も入れてPRしないといけない。
- ・ 海外からの集客では、特に近県との連携が必要である。
- ・ 連携の中でも、宮城などは平泉から観光客を呼ぶ、岩手は松島から観光客を呼ぶなど、お互いに工夫している。

- ⑧ 観光コーディネーター
 - ・ 元 JTB の方だが、地元で優秀な方を人材育成する、他から来てもらい地元では思いもよらない企画を考えてもらうなど、民間の知恵を活用する。
 - ・ 県内各所に、人材育成もしつつ観光コーディネーターを増やしたい。
- ⑨ 放射線の風評被害
 - ・ 岩手県でも風評被害について調査し、住民が安心してることが先決である。住民が安心してすることで、観光客にも安心して来てもらう。
 - ・ 海外は、まだ心配する方がいるのも事実である。

2. 3 視察後の感想

被災地報告として最後に、今回視察に参加した委員から簡単に感想を述べて頂いた。

- 小林：沿岸と内陸では世界が違う感じがする。中心となる観光（宮澤賢治・平泉など）がありうらやましい。岩手は首都圏から遠いがゆえに、宿泊を含めたメリットがある。福島も沿岸は同じ状況だが、岩手は被災地向けの観光バスが既に出ている。今回の視察にて福島と比較して理解することが必要である。福島の草野心平が宮澤賢治と親交があったということを知ったが、どこかでつながりがありこれを双方の観光に活かす視点も必要だと感じた。
- 岡崎：今回の視察で、旅行ツールを考えられる学生を育成する必要があると強く感じた。旅行は食と関連が深いと実感したが、一方、福島は放射能により、食を抜かしてどう観光復興するのかが大きな課題である。観光業界の方がどのような取り組みをして復興を考えているのか調べる必要があると感じた。
- 遠藤：学生には実感をもって震災の事実を伝えていく必要がある。岩手等の東北は首都圏から距離があるので、着地型観光が進む理由があると感じた。盛岡の専門学校取り組みの話は大変参考になった。
- 森永：被災地の沿岸地区は瓦礫撤去だけで観光等復興はこれからという印象である。今回の震災および原発の真実を学生に伝える必要があると強く感じた。これにより将来的に学生が何を考え、何を生み出すのかを期待したい。

Ⅱ. 視察報告② 福島県内観光地視察報告

1. 野口英世記念館

〒969-3284 福島県耶麻郡猪苗代町大字三ツ和字前田 81

TEL 0242-65-2319 FAX 0242-65-2500

訪問日 平成 24 年 3 月 19 日 (月)

観覧について

- 休館日／12 月 29 日から 1 月 3 日を除き無休。
- 開館時間／4 月～10 月 午前 8 時 30 分～午後 5 時 (入場は午後 4 時 45 分)
11 月～3 月 午前 9 時～午後 4 時 15 分 (入場は午後 4 時まで)
- 見学所要時間／約 30 分

観覧料金

	大人	小人
個人	500 円	200 円
団体 (20 名以上)	一般 400 円 学生 300 円	一般 150 円 学生 150 円

- ・ 料金は消費税を含む。
- ・ 大人は高校生以上、小人は小中学生。

交通

- 東北新幹線郡山駅のりかえ磐越西線猪苗代駅下車。バス 10 分、タクシー 6 分。
- 磐越自動車道猪苗代磐梯高原インターから国道 49 号線で約 5 分。

運営 財団法人野口英世記念館

事業の内容

1. 生家の保存・野口英世記念館 (福島)、野口英世記念会館 (東京) の管理運営。
2. 野口英世記念医学賞の授与。
3. 野口英世記念会奨学金制度、その他野口博士を顕彰する事業。

■ 野口英世記念館のあらまし

英世が西アフリカで殉職した 1928 年（昭和 3）、東京の追悼会で、遺徳偉業の顕彰を生家の保存を目的として「野口英世博士記念会」が生まれた。1938 年（昭和 13）には、財団法人としてスタートし、その翌年に「野口英世記念館」が開館した。母シカが英世に宛てた手紙や英世自筆の習字や絵、ニューヨーク・ロックフェラー医学研究所で活躍していた当時の顕微鏡をはじめとする実験道具や資料、野口英世ロボットなどを通して、猪苗代での生い立ちから、西アフリカでの死まで、数々の功績を知ることができる。1954 年（昭和 29）に、福島県第 1 号の登録博物館となり現在に至っている。

■ 生家について

1876 年（明治 9）、11 月 9 日に生まれて、上京するまでの 19 年間で過ごしたこの家は、建てられて 200 年たった今も当時の姿が保たれている。英世が火傷した囲炉裏や、上京するときに決意（「志を得ざれば再び此地を踏まず」）を刻んだ柱が残されている。

2. 史跡 若松城天守閣・茶室麟閣（鶴ヶ城）

〒965-0873 福島県会津若松市追手町 1 番 1 号

TEL 0242-27-4005 FAX 0242-27-4012

訪問日 平成 24 年 3 月 19 日（月）

観覧について

- 開館時間／午前 8 時 30 分～午後 5 時（入場は午後 4 時 30 分）
- 見学所要時間／約 60 分

観覧料金

	大人	小人
個人	500 円	150 円
団体（30 名以上）	450 円	140 円
団体（100 名以上）	400 円	120 円

- ・ 料金は消費税を含む。
- ・ 大人は高校生以上、小人は小中学生。小学校就学前の幼児は無料。

交通

- 東北新幹線郡山駅のりかえ磐越西線会津若松駅下車。バス 15 分、タクシー 7 分。
- 会津若松駅から会津鉄道にて七日町駅または西若松駅下車。それぞれタクシーで 3 分。

- 磐越自動車道若松インターより、国道 49 号線を通り会津若松市内へ入り、千石通りもしくは中央通り、神明通りを南下し約 5km。

運営 財団法人会津若松市観光公社

■ 鶴ヶ城天守閣について

新撰組や白虎隊が活躍し、戊辰戦争の舞台ともなった名城。平成 27 年に再建 50 周年を迎える鶴ヶ城天守閣は、史跡文化財整備のひとつとして江戸時代末期の姿を再現する「往時の天守閣再現事業」に取り組んでいる。これまでの天守閣の屋根瓦は江戸時代前期をイメージした黒い瓦であったが、幕末期の姿に近づけるようにと出土遺物などを元に鉄分を多く含んだ赤褐色の釉薬（うわぐすり）を施した「赤瓦」に葺き替えたほか、外壁や欄干の修繕をあわせて行った。国内の城壁において日本海側を中心に赤瓦の使用例は見られるが、現存する赤瓦の天守閣としては唯一の建造物となる。

■ 鶴ヶ城天守閣について

五層	城下町会津を展望。	昔の藩主の眺めを実感できる展望フロア。 解説があり、360 度の眺めから会津の風景を楽しめる。
四層	城下町の風物を紹介。	音声ガイドにて季節ごとに城下の風物詩を紹介している。城下で行われた年中行事の雰囲気歩きながら感じるフロア。
三層	錦絵で描く会津戊辰戦争。	幕末の動乱期に繰り広げられた戊辰戦争の概要を知ることができる。歴史に翻弄された会津藩と白虎隊の悲劇について錦絵を中心にドラマチックに紹介している。
二層	楽しみながら学ぶ江戸時代の会津。	江戸時代の会津藩を紹介している、仮装して記念写真も撮れる。
一層	資料で知る歴代藩主。	鶴ヶ城の歴代藩主と城の変遷が資料にて解説されている。年間を通じて特別展や企画展が開催され、CG シアターも見ごたえあり。「展示解説員」が待機しており、来場者の質問に答えるサービスも充実。
塩蔵	塩蔵を再現。	全国的にも貴重な塩蔵の様子が再現されている。石垣を利用した解説も楽しめる。
入口 出口	鶴ヶ城ギャラリー&ショップ。	会津の伝統産業を紹介するコーナーでは定期的に会津独自のアイテムを紹介・販売している。会津の特産品の中でも、鶴ヶ城でしか扱っていない商品も多数取り揃えている。

■ 茶室麟閣について

天正 19 年千利休は豊臣秀吉の怒りにふれ、死を命じられた。この時、千利休の茶道が途絶えることを惜しんだ会津の領主、蒲生氏郷は、利休の子の少庵を会津に匿い、豊臣秀吉に『千家再興』を願い出た。この結果、少庵は京都へ帰り、千家茶道は少庵の子『宗旦（そうたん）』に引き継がれ、その孫により武者小路、表千家、裏千家の三千家が興され現在に至っている、この「麟閣」は少庵が会津に匿われていた時、氏郷のために造ったと伝えられており、戊辰戦争後は茶人森川善兵衛宅で大切に保存されてきた。会津若松市では平成 2 年、市制 90 周年を記念し、この麟閣を元の場所へ移築復元し後世へ伝えている。

■ 戊辰戦争後の鶴ヶ城の歴史。

- 1874年 鶴ヶ城取り壊し。
- 1965年 天守閣再建工事落成。
- 1984年 築城 600 年記念式典。
- 1990年 茶室麟閣を本丸内に移築。
- 2000年 千飯櫓・南走長屋を復元。
- 2004年 天守閣内部をリニューアル。
- 2011年 天守閣屋根瓦を赤瓦に吹き替え完成。

—東日本大震災発生から 1 年後—会津地方視察での聞き取り調査

「野口英世記念館」および「鶴ヶ城」とも、今年度(昨年 4 月～今年 3 月にかけて)の入館者数は、一昨年度(おとし 4 月～昨年 3 月にかけて)と比較し、約 1 割だったとのこと。入館数の大部分を占めていた修学旅行の取り消しによる減少が原因である。次年度(今年 4 月以降)の修学旅行の申し込みは昨年度と比較すれば増加傾向ではあるが、それでも震災前の修学旅行の半分には達していない。震災前であれば、会津若松市内への観光客は推定で年間 330 万人に及んだ。次年度もまだまだ先行きは不透明のこと。現在次年度以降期待が持てるのは個人客であり、NHK 大河ドラマに決定した「八重の桜」(同志社大学創設者新島襄の妻新島八重を主人公にしたドラマ)の効果があり、既に今年 1 月以降、雪が多かった冬にもかかわらず、県外からの個人観光客が絶えない様子。ただし、福島空港⇄上海便、福島空港⇄ソウル便が運休していることもあり、中国、韓国からの観光客の回復が無い。反面、羽田・仙台空港などを利用し、台湾からの観光客は定期的に見られること。

(平成 24 年 3 月 19 日)

3. 「道の駅」たまわか（こぶしの里）

〒963-6311 福島県石川郡玉川村大字岩法寺字宮ノ前 140-2

TEL 0247-57-3800

交通 国道 118 号線と県道福島空港道路を結ぶ福島空港道路西線沿い

訪問日 平成 24 年 3 月 20 日

- 営業時間／午前 8 時 00 分～午後 6 時 00 分
- 定休日／元日
- おすすめの品／サルナシジュース、トマトゼリー、おこわご飯、地酒、きゅうり、りんご、ジュース、餅

特徴／商品の「安心」「安全」をモットーにしており、野菜や加工品全てに生産者の名前が貼られている。開店時間が早く、馴染みの固定客が多いという。場所が福島空港近くということで、空港の途中に立ち寄る客も多いと思ったが、道から少し入りくんだところにあるため、気付かずに通り抜けるケースが多く、その辺りは残念であるが、他県のファンも数多い。普段は「道の駅」でありながら、地元産野菜・果物の直売所的役割が大きく、地元の客が中心だが、特にゴールデンウィーク・お盆・正月は帰省客の利用者で非常に賑わうとのこと。また関東圏を中心に通信販売サービスも行っている。

4. 「道の駅」ひらた（芝桜の里）

〒963-8202 福島県石川郡平田村大字上蓬田字横森後 160

TEL 0247-55-3501

交通 国道 49 号線沿い

訪問日 平成 24 年 3 月 20 日

- 営業時間／午前 9 時 30 分～午後 6 時 00 分
- 定休日／年始
- おすすめの品／自然薯（じねんじょ）、そば、炭、ご当地ソフトクリーム（3 種類）、乾麺（うどん）、地酒、しいたけ、高原野菜、豆腐製品

特徴／阿武隈山溪蓬田岳の麓、国道 49 号とあぶくま高原自動車道「平田 IC」のクロスポイントに位置。国土交通省による道路情報提供施設と、まちづくり交付金を活用した地域振興施設が整備され、平田村の玄関口としての役割が期待されている。近くには豊かな自然を生かした観光レクリエーション施設「ジュピアランドひらた」があり、登山や森林浴、野鳥観察、デイキャンプ等の基地として親しまれている。無料休憩所や清潔感溢れるトイレなども話題。情報提供端末等も完備され、49 号線上のオアシス的存在になっている。

一東日本大震災発生から1年後一県南地方視察での聞き取り調査

昨年3月11日の震災・津波発生後、「道の駅」やまかわ、「道の駅」ひらたとも、一年間を通して、立ち寄る利用者数が激減したわけではないが、地元産の野菜・果物・加工品などの売り上げは確実に減少した。どちらも「安心」できる商品の販売や、県内を中心とした観光情報のパンフレット・資料を充実させ、情報発信基地としてのサービスに力を入れている様子であった。

視察日が3月20日（春分の日）ということもあり、どちらも店内は予想以上に混雑しており、活気を感じた。

（平成24年3月20日）

Ⅲ. 放射線に関する分科会のまとめ

【放射線・放射能に対する不安の要素・要因】

- ・不安の要素
⇒放射線に関する知識，環境汚染に関するもの，ストレス（いじめ・鼻血等）
- ・不安の要因
⇒知識の不足，リスクが理解しにくい，現状の正確な把握が難しい
⇒マスメディア，インターネット，SNS 等による誤った情報の独り歩き

【人体に与える影響】

- ・線種による電離作用
⇒ α 線 $>$ β 線 $>$ γ 線 $=$ X線
- ・人体への影響・放射線各種（物質）の沈着部位と主な発症例
- ・生体反応の線量と効果の関係
⇒年間 100mSv 以下では人体に影響はでないという科学的データ
- ・混同が招く不安と不信
⇒被ばく限度の勧告値が変化するのは、科学的なデータ（リスク評価）ではなく防護上の目安（リスク管理）に基づいているから。
- ・確定的影響と確率的影響
⇒低線量被ばくによる健康への影響は高線量被ばくの 1/2 以下

【福島第一原子力発電所事故】

- ・Cs137 の半減期
⇒Cs137 の半減期は 30 年とされるが、土壌の条件や植物による吸収、水溶等によって、実際は 6 年～20 年で半減する。（Cs134 の半減期は 2 年）
- ・プルトニウム飛散による汚染状況
⇒福島でのプルトニウム飛散は、事故前に確認されていた地球規模の平均飛散量より低い。チェルノブイリと比べて 1/100～1/1000 程度。最大でも 15Bq/m²で、ほとんどが 5Bq/m²以下。
- ・ストロンチウム飛散による汚染状況
⇒チェルノブイリ排除区域（半径 30km 圏内）の汚染状況は 111kBq/m²。福島では一番高いところで 5.7 kBq/m²なので、チェルノブイリの 1/20～1/100 程度
- ・セシウム飛散による汚染状況
⇒福島県中通りの汚染状況はチェルノブイリの事故によって汚染したオーストリアの比較的高いところに相当する程度。

※ウクライナにおける避難基準

- ・セシウム 137 ⇒ 555 kBq/m²以上
- ・ストロンチウム 90 ⇒ 111kBq/m²以上
- ・プルトニウム ⇒ 3.7kBq/m²以上

【福島の実況】

- ・住んでいても問題のないレベル
- ・汚染についても問題なし
 - ⇒チェルノブイリの汚染の方がずっと上のレベル
 - ⇒放射性物質のほとんどが海に逃げたため海の汚染は深刻（特に海底）。魚類の 7 割程度が出荷停止の状態。
 - ⇒野菜に関しても問題のないレベル。
 - ⇒各家庭の食事の汚染実態も問題ないレベル。

【風評の原因】

前述の通り、核種によって避難基準の数値に違いがある。プルトニウムは危険性が高いため、避難基準の数値が小さく設定されているが、それに比べ、セシウムの数値は格段に上に設定されている。しかし、プルトニウムの小さい数値が独り歩きしてしまい、その数値とセシウムの汚染数値を比べて危険だとされているように考えられる。

IV. ①アンケート質問項目

文部科学省 東日本大震災からの復旧・復興を担う専門人材育成支援事業
『福島観光業の復興を担う人材育成カリキュラム開発』

福島県における観光業界の現状や問題点についてのアンケート

* 東日本大震災や原発事故の影響を受けた福島県内の観光業界のニーズに対応した人材を育成する新たな

カリキュラムを開発することを目的としてアンケートを作成致しました。ご多忙中のところ誠に恐縮では

ございますが、ご協力をお願い申し上げます。なお、アンケートは本事業の資料として使用するものであり、業者名等を特定するものではありません。

■回答日 : 平成____年____月____日

■従業員数 : 1～5名・6～10名・11名～15名・20名以上

■所在地 : _____県_____市

以下のアンケートに目を通して頂き、最も該当するものを選択し○で囲んで下さい。なお、その他の場合には()内への記述形式となっておりますので、お手数ですがご協力頂ければ幸いです。

Q.1 東日本大震災発生以降、事業規模に変化はありましたか？

- A) 20%以上縮小 B) 5~20%未満縮小 C) 震災前と同じ
D) 5~20%未満拡大 E) 20%以上拡大

Q.2 東日本大震災発生から1年経過し、震災前と比較して旅行の取扱高はどのように変わりましたか？

- A) 20%以上減少 B) 5~20%未満減少 C) 震災前と同じ
D) 5~20%未満増加 E) 20%以上増加

Q.3 貴社を利用されるお客様の目的の中で最も割合が大きいものは何でしょうか？

- A) 観光目的 B) 復興支援（ボランティア・復旧工事・保険地質調査等）目的
C) 業務出張・研修が目的 D) その他（ ）

Q.4 貴社の取扱いの中で、国や地方自治体からの助成金を利用したの申し込みが占める割合は全体のどの程度ですか？

- A) 1~25%未満 B) 25%以上~50%未満
C) 51%~75%未満 D) 75%以上~100%

Q.5 貴社の取扱いの中で、風評被害によるキャンセルは何件程度ありましたか？

- A) 1~50件未満 B) 50件以上~100件未満 C) 100件以上

Q.6 観光業界に関する今後の見通しについてはどのようにお考えですか？

- A) 2012年中に、旅行需要の回復が見込まれる。
B) 将来的には旅行需要の回復が見込まれる。
C) 震災以前よりも旅行需要の拡大が見込まれる。
D) 当面、旅行需要の回復は見込めない。
E) その他（ ）

Q.7 現在の観光業界にとっての課題は何だとお考えですか？（複数回答可）

- A)放射性物質拡散による風評被害 B)余震の心配 C)日本経済の景気の低迷
D)少子・高齢化 E)報酬の不安定 F)観光業界の現場の人材不足
G)魅力ある観光地の不足 H)道路交通網の未整備・損壊 I)人口流出
J)その他（ ）

Q.8 今後の観光業界を担う人材にはどのような資質を求めますか？（複数回答可）

- A)コミュニケーション能力 B)おもてなしの精神 C)リーダー・シップ
D)企画・立案力 E)若さ・体力 F)語学力 G)IT技術 H)郷土愛
I)その他（ ）

Q.9 今後の観光業界を担う人材が学ぶために取り入れるべき知識・技術について
どのような内容がふさわしいとお考えですか？（複数回答可）

- A)福島県の歴史・風土の知識 B)福島県隣接県の観光の知識
C)放射線・新エネルギーの知識 D)災害時の知識 E)パソコン操作力・IT技術
F)外国語能力 G)マーケティングの手法 H)接客対応技術
I)第1次産業（農・林・水産業）に対する知識
J)その他（ ）

以下は旅行業者様に対し、福島県に関する事項をおたずね致します。

Q.10 東日本大震災発生後、取り扱う旅行先に変化はありましたか？

- A)福島方面の旅行が減少 B)東北方面の旅行が減少。
C)ほとんど変化はない。 D)福島方面・東北方面の旅行が増加
E)その他（ ）

Q.11 福島県の旅行先について特にどの地域をお勧めしますか？

- A)会津地方をお勧めする。 B)中通りをお勧めする。 C)いわき地方をお勧めする。
D)どの地方もお勧めする。 E)どの地方もお勧めしない。
F)その他（ ）

Q.12 貴社が今後取り扱う国内旅行企画における発地方・着地型のバランスについて
どのようにお考えですか？

- A)発地（アウトバウンド）型を重視していく。 B)着地（インバウンド）型を重視していく。
C)発地型も着地型も重視していく。
F)その他（ ）

Q.13 貴社が今後取り扱う企画旅行における国内旅行・海外旅行のバランスについて
どのようにお考えですか？

- A)国内旅行企画を重視していく。 B)海外旅行企画を重視していく。 C)国内も海外も重視し
ていく。 D)その他（ ）

IV. ②アンケート集計結果

- アンケート発送日平成24年 3月 7日(水)
- 回答日 平成24年 3月 8日(木) ~ 3月15日(木)
- 回答業種

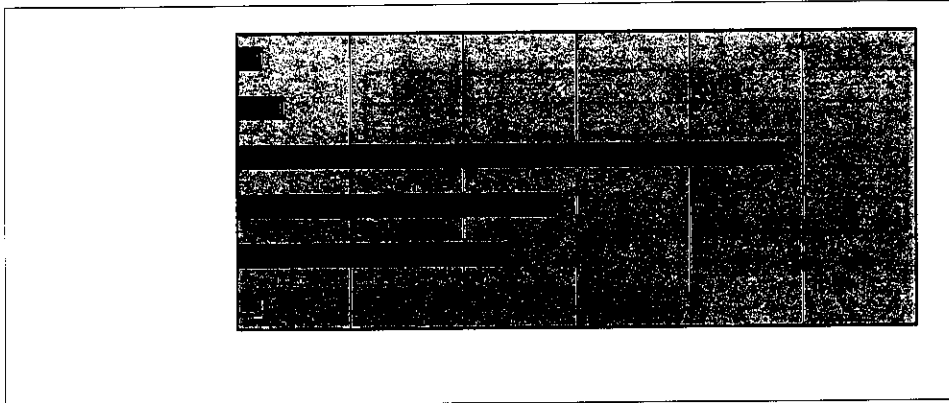
業種	送付数	回答数	回答率
ホテル	4	2	
旅館	84	25	
第1 旅行者	10	5	
第2 旅行者	16	9	
第3 旅行者・代理業者	20	9	
県外 旅行者	20	7	
	154通	全 57通	37.0%

■ 集計結果

Q1. 東日本大震災発生以降、事業規模に変化はありましたか？

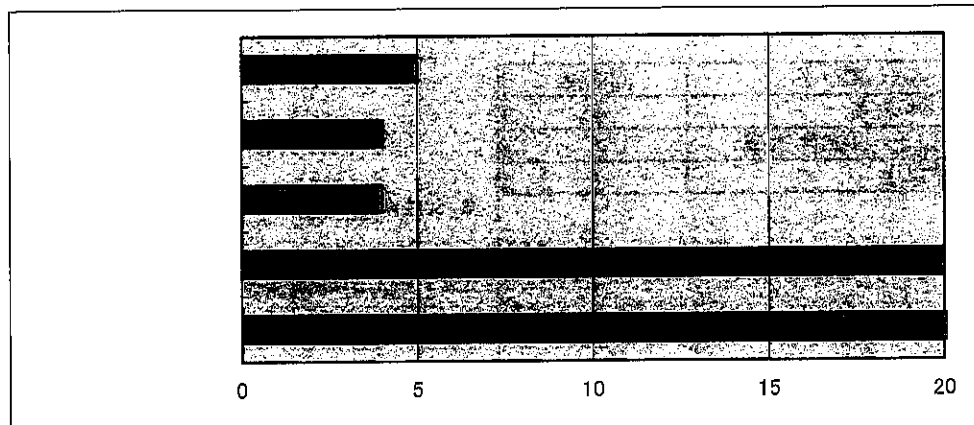
事業規模	回答数
休業中	1
A. 20%以上縮小	12
B. 5~20%未満縮小	14
C. 震災前と同じ	24
D. 5~20%未満拡大	2
E. 20%以上拡大	1

3社未回答



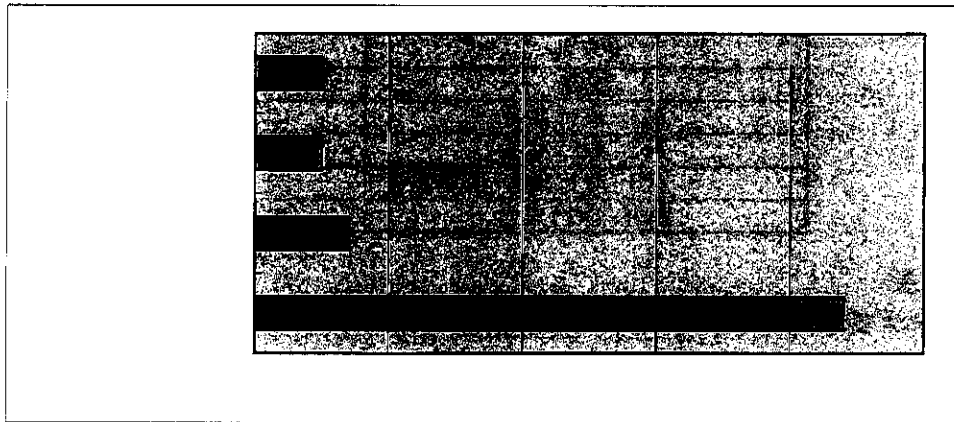
Q2. 東日本大震災発生から1年経過し、震災前と比較して旅行の取扱高はどのように変わりましたか？

取扱高	回答数
A. 20%以上減少	24
B. 5~20%未満減少	20
C. 震災前と同じ	4
D. 5~20%未満増加	4
E. 20%以上増加	5



Q3. 貴社を利用されるお客様の目的の中で最も割合が大きいものは何でしょうか？（一部複数回答あり）

目的	回答数
A. 観光目的	44
B. 復興支援目的	7
C. 業務出張・研修目的	5
D. その他	5

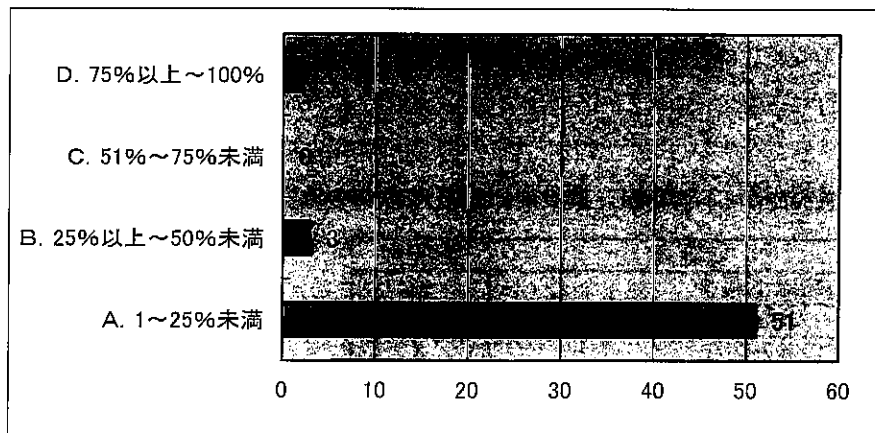


D. その他（意見）
・ビジネスマン
・温泉のんびり1泊
・被災者の集合、諸会合
・企画商品の代売
・懇親会

Q4. 貴社の取扱いの中で、国や地方自治体からの助成金を利用しての申し込みが占める割合は全体のどの程度ですか？

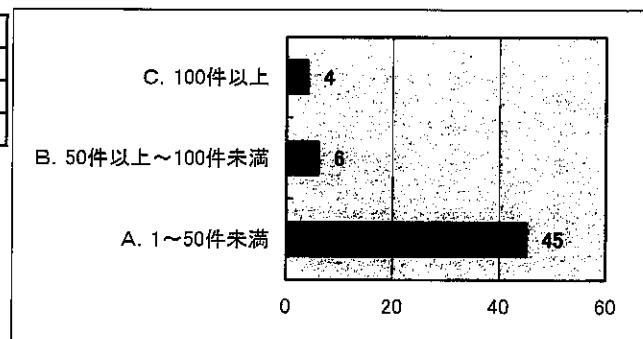
助成金	回答数
A. 1～25%未満	51
B. 25%以上～50%未満	3
C. 51%～75%未満	0
D. 75%以上～100%	2

1社未回答



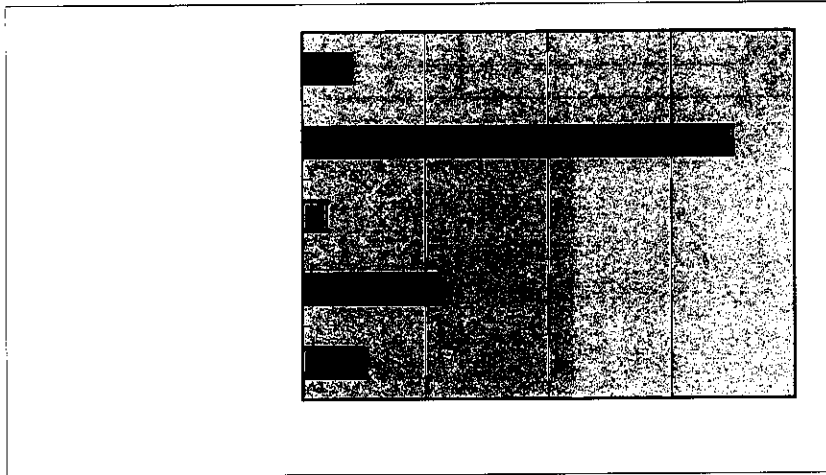
Q5. 貴社の取扱いの中で、「ふくしまっ子」の取扱いは何件程度ありましたか？

ふくしまっ子	回答数
A. 1～50件未満	45
B. 50件以上～100件未満	6
C. 100件以上	4



Q6. 福島県内の観光に関する今後の見通しについてはどのようにお考えですか？

今後の見通し	回答数
A. 年内には回復	5
B. 将来的には回復	11
C. 震災以前より需要拡大	2
D. 当面回復を見込めない	35
E. その他	4

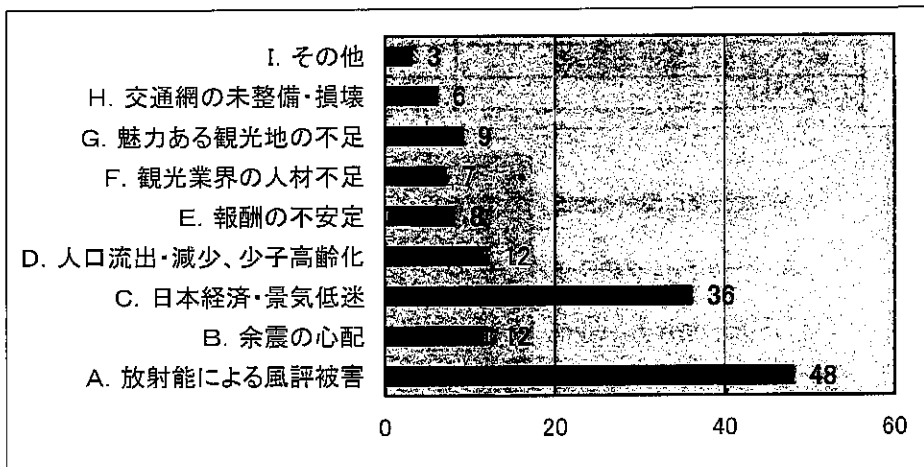


E. その他（意見）

- ・不透明で見通しが立たない。
- ・原発事故の風評被害が払拭されない限り、回復はない。
- ・原発補償費の消費により多少の拡大が見込まれる。

Q7. 現在の福島県の観光業界にとっての課題は何だと思いますか？（複数回答可）

課題	回答数
A. 放射能による風評被害	48
B. 余震の心配	12
C. 日本経済・景気低迷	36
D. 人口流出・減少、少子高齢化	12
E. 報酬の不安定	8
F. 観光業界の人材不足	7
G. 魅力ある観光地の不足	9
H. 交通網の未整備・損壊	6
I. その他	3

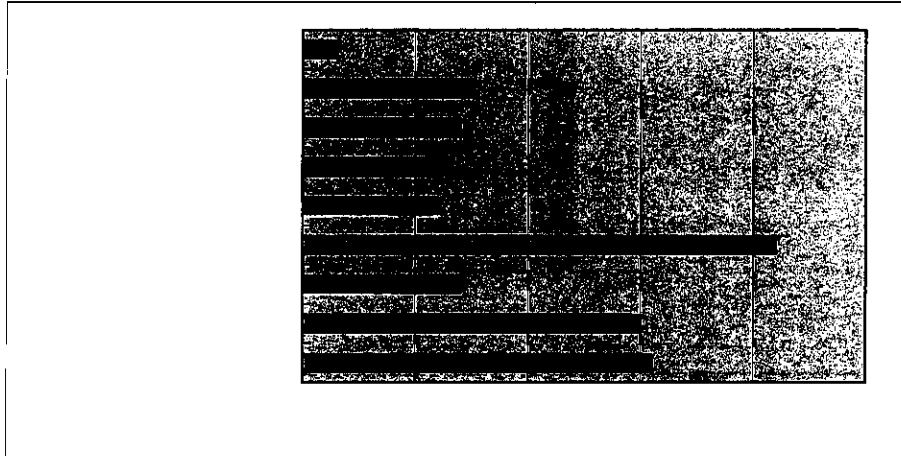


I. その他（意見）

- ・放射能によって県外へ避難するための人口流出。
- ・外国から比較すれば、電柱ばかりの地に観光はありえない。
- ・全て関係していると感じる。

Q8. 今後の福島県の観光業界を担う人材にはどのような資質を求めますか？（複数回答可）

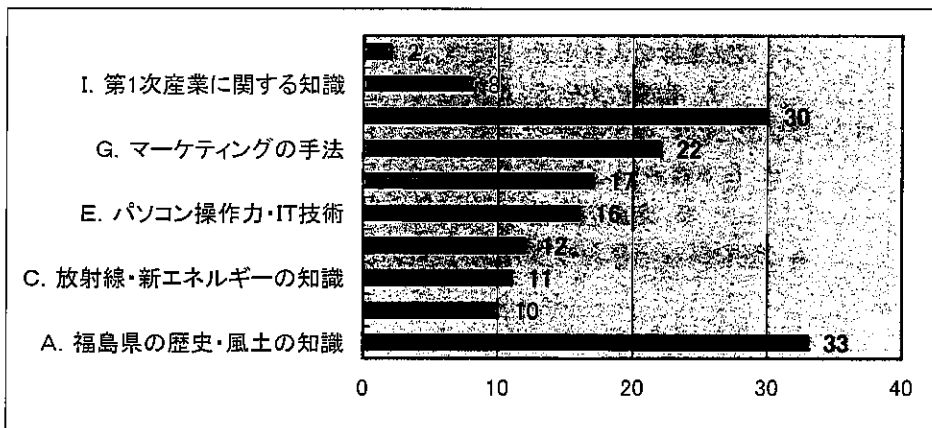
求める人材の資質	回答数
A. コミュニケーション能力	31
B. おもてなしの精神	30
C. リーダー・シップ	14
D. 企画・立案力	42
E. 若さ・体力	12
F. 語学力	11
G. IT技術	14
H. 郷土愛	15
I. その他	3



I. その他（意見）
・人間的魅力。
・日本を変える程の熱意。

Q9. 今後の福島県の観光業界を担う人材が学ぶために取り入れるべき知識・技術についてどのような内容がふさわしいとお考えですか？（複数回答可）

求める人材の知識・技術	回答数
A. 福島県の歴史・風土の知識	33
B. 福島隣接県の観光の知識	10
C. 放射線・新エネルギーの知識	11
D. 災害時の知識	12
E. パソコン操作力・IT技術	16
F. 外国語能力	17
G. マーケティングの手法	22
H. 接客対応技術	30
I. 第1次産業に関する知識	8
J. その他	2

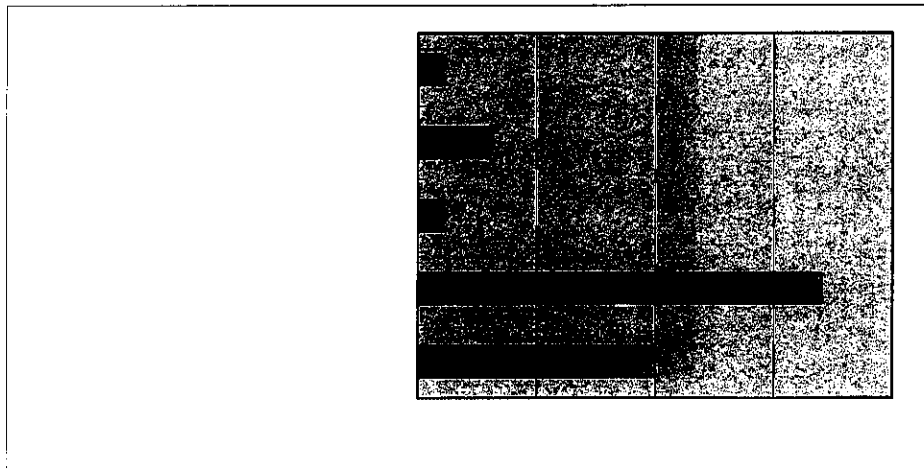


J. その他（意見）
・しつけのし直し（社会常識の再教育）。
・マニュアル対応でなく臨機応変に対応できる力。

以下、旅行業者のみの回答

Q10. 東日本大震災発生後、取り扱う旅行先に変化はありましたか？

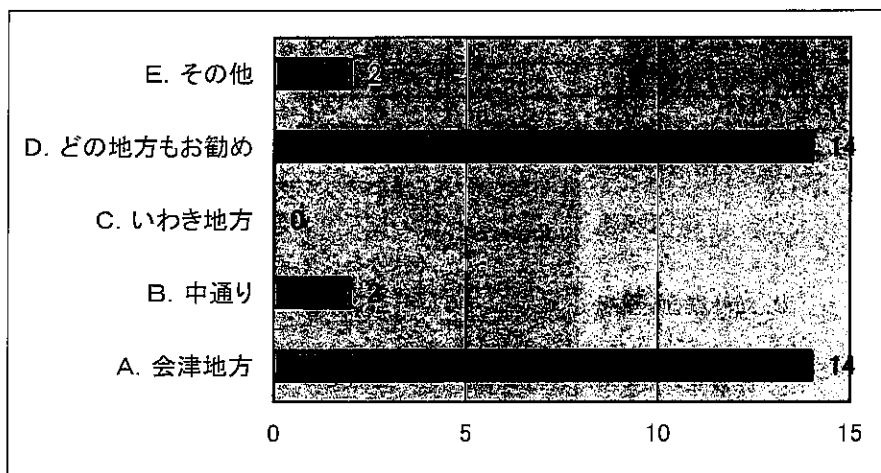
旅行先	回答数
A. 福島県内の旅行者の減少・流出	10
B. 福島県内・県外ともに減少	17
C. ほとんど変化なし	1
D. 福島県内の旅行が増加	3
E. その他	1



E. その他（意見）
・東北への旅行を希望する人が減少、遠くを希望しない。

Q11. 福島県内の旅行先について特にどこの地域をお勧めしますか？

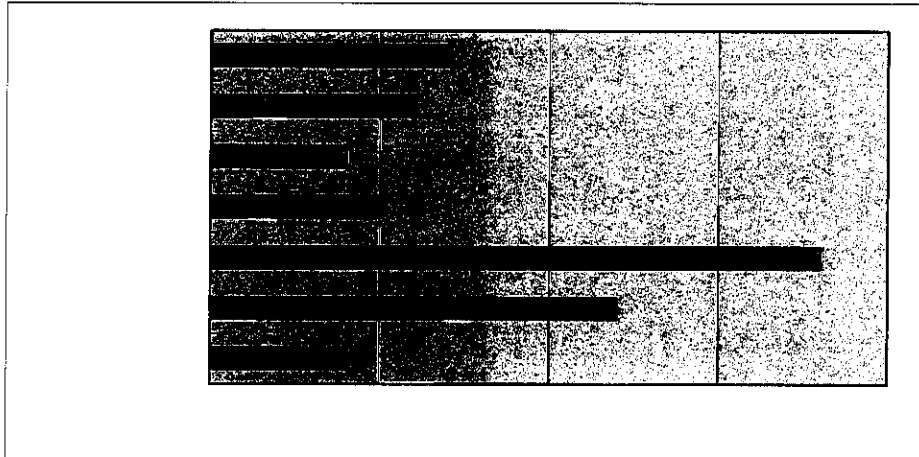
お勧めの地域	回答数
A. 会津地方	14
B. 中通り	2
C. いわき地方	0
D. どの地方もお勧め	14
E. その他	2



E. その他（意見）
・お客様のニーズに合わせて。

Q12. 貴社が今後取り扱う国内旅行企画は、どの方面を重要視しますか？（複数回答可）

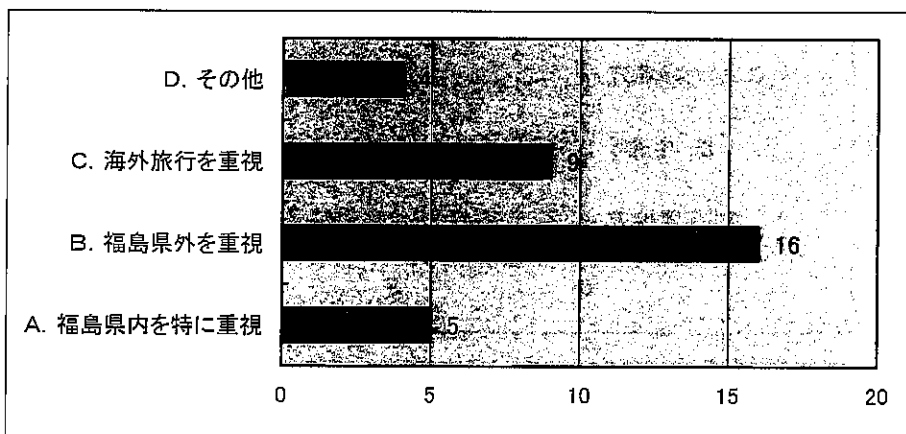
方面	回答数
A. 福島県内	4
B. 北海道・東北	12
C. 関東・首都圏	18
D. 中部・東海	5
E. 中国・四国	4
F. 九州・沖縄	6
G. その他	7



G. その他（意見）
・受注型旅行が主なため企画型旅行はほとんどなし。
・国内全域。
・シーズンにより方向が変わる。
・お客様のニーズに合わせて。
・海外。
・県外であり、特に特定はありません。

Q13. 貴社が今後取り扱う企画旅行の中での福島県内の旅行あるいは福島県外の国内旅行・海外旅行のバランスについてどのようにお考えですか？

バランス	回答数
A. 福島県内を特に重視	5
B. 福島県外を重視	16
C. 海外旅行を重視	9
D. その他	4



D. その他（意見）
・お客様のニーズに合わせて。

V. 次年度カリキュラム開発にむけて

1. 本事業の実績について

原発事故の影響を受け、福島県の観光業は大きな痛手を負っている。アンケートの結果を確認しても、取扱高が20%以上減収している業者が42%を占めていたり、福島県内の観光業の見通しについて『当分回復を見込めない』と考えている方が60%もいたりという状況である。この厳しい状況の中で、今後の福島県の観光業界を担う人材に求める資質として74%の方々が『企画・立案力』を挙げていることは、特筆すべき点であろう。視察を通して確認した岩手県の観光の取り組みでは、地域にコーディネーターを配置して新たな観光資源を模索するなどの取り組みがされており、気仙沼においても震災の爪跡を逆に観光資源として取り入れようとする動きがあるなど、福島県に限らず、観光業従事者に企画・立案力が求められることが明白となった。本校においても、この点を考慮して新たなカリキュラムを再構成する必要がある。

2. 平成24年度以降の事業展開

本事業を通して確認できたカリキュラムの改善ポイントは、企画・立案力の養成と放射線に関する正しい知識の学習の2点の導入である。以上を踏まえて、平成24年度には福島県の観光業に従事する者として今後求められるスキル等に配慮した新たな人材育成カリキュラムの再構成に着手し、可能であれば一部試行導入、平成25年度より本格的に試行導入していく予定である。放射線の教育については指導内容の精査が今後も必要であると同時に、観光系の学科としては被ばくという負の遺産を観光の資源として活用している広島や長崎の取り組みも学ぶ必要がある。また、企画・立案力を高めるには実習による授業導入が必要であり、より良い授業運営のために福島県内の観光業従事者との連携強化が重要な課題となる。この点は、今回の事業でご協力いただいた福島市商工観光部観光課のご協力を得ながら、次年度多くの自治体や業者との連携を図る。成果の普及については、成果報告書の作成・配布に加え、作成したHPを通して広く情報公開に努める。

本事業ホームページアドレス

<http://kanko-fukushima.jo-bi.jp/>

文部科学省委託事業
平成 23 年度 東日本大震災からの復旧・復興を担う
専門人材育成支援事業

福島観光業の復興を担う
人材育成カリキュラム開発
成果報告書

平成 24 年 3 月

学校法人 新潟総合学院 郡山情報ビジネス専門学校

連絡先：〒963-8002 福島県郡山市駅前 1-12-2

電話：024-934-4405 FAX：024-922-4167

※本書の内容を無断で転記・記載することを禁じます

